

◇濱松の小川一男氏からサソリの標品 2 瓶を頂いた(1951年 3 月)。それらはキョクトウサソリであるが産地や採集年月日、採集者名等は今では判らなくなっている。次に備忘として数値を掲げて置く。

性	頭 胸 長	櫛状器歯數
1 ♂	$6+12.5=18.5$ 耗	右 20 枚, 左 20 枚
2 ♀	$4+9=13$	右 19, 左 18
3 ♂	$5.5+13.5=19$	右 22, 左 23
4 ♀	$5+16.5=21.5$	右 18, 左 12 以上(一部折損)

體肥大し節間膜が延びている場合にはどうしても前腹部長は大きい値になる。No. 4 はその 1 例である。(高島春雄)

### カ ニ ム シ ノ ー ト

◇京都大學農學部佐久間海雄氏が1951年 4 月中旬京都市左京區の家屋内で採り種名を知らせて欲しいと送つて來られたのは分布汎世界的といわれるイエカニムシ *Chelifer cancelloides* (Linné) であった。これは日本でも普通のカニムシ故「日本動物圖鑑」などに圖示されていぬのが不思議な位である。イエカニムシという名は私は森川國康氏の「四國産蜘蛛類・多足類目録」(1945)で覺えたのであるから森川氏が其の時命名されたものであろう。最近「採集と飼育」第13卷第4號(1951)に宮崎淳氏がこの種類をナミカニムシという名で書いているので同氏に何つたら標本査定者岸田久吉氏がそういう名で知らせて下さつたとのこと故、岸田氏が新に選ばれたものであることが判つた。

◇1949年 7 月高知女子大學石川重治郎氏から種名を知らせて欲しいとお送り下さつたカニムシ 2 種は *Roneus* (*Roneus*) *japonicus* (Ellingsen) と *Tyrannochthonius japonicus* (Ellingsen) に同定した。標品は高知高校 2 年生川澤哲夫氏が高知縣高岡郡上ノ加江町で採集したものである。これを調べた時判つたことだが「改訂増補日本動物圖鑑」(1947)にアギトツチカニムシ(別名ヨツメカニムシ, ツチカニムシ) *Gnathochthonius japonicus* Ellingsen とあるのは上記 *T. japonicus* と同種であるのだが *Gnathochthonius* なる屬名は右圖鑑で岸田久吉氏がお使いになつた新しい名であつた。*T. japonicus* に対しては岸田氏は1915年にはイボカニムシ, 1927年にはヨツメカニムシ(別名アギトカニムシ, ツチカニムシ)としておられる。どれがよいか迷うがアギトツチカニムシ(上記圖鑑で新しく選ばれた名)に敬意を表することにしよう。

◇東大竹脇森教授が1950年 5 月23日東大理學部鼠小屋の中で偶然採集されたカニムシを 1

頭下さつた。これの種名はまだきめかねているが、面白いのは2岐した背板が第1から第7までは正常であるが第8から第11まで左側のものが異常で畸形的である。第8背板は下縁膨出、第9から第11までは何れも圓形や勾玉状などに萎縮している。

◇Microcreagrisというカニムシには日本産は5種ある。1934年までにこの属は37種を含んでいた。その後 Zoological Record で戦後最新の分まで當つてみたら *M. parisi* Vachon, *M. indochinensis* Redikortzev, *M. chinensis* Beier (南京産), *M. heros* Beier, *M. lata* Hoff, *M. ozarkensis* Hoff, *M. abnormis* Turk, *M. cavernicola* Vachon, *M. balcanica* Hadzi 等がふえて總べて46種程になつたようである。この *Microcreagris* という属名の意味が判らないで困っている。(以上各項 高島春雄)

### 國立自然教育園内の蜘蛛(追加)

本誌前號に約40種の和名を掲げた。その後、1947年と1948年にこの園近くの白金小學校の兒童達が採集したクモを、それを保管していた長谷川仁氏から渡され、その中に前回のリストに含まれていないものを幾つか見出したので追加する。長谷川氏並びに鑑識して頂いた植村利夫氏に謝意を捧げる。

ヤマシログモ科 42ヤマシログモ *Scytodes nigrolineata* Simon コガネグモ科 43ヤマシロオニグモ *Araneus scylla* (Karsch) 44ヨツデゴミグモ *Cyclosa sedeculata* Karsch (卵囊のみ) ハエトリグモ科 45アカアリグモ *Myrmarachne japonica* Karsch フクログモ科 46ムナアカフクログモ *Clubiona vigil* Karsch (高島春雄)

### 尾瀬のヤスデ斑

尾瀬沼を中心とする尾瀬濕原での動植物の採集調査は昨昭和25年のはやりになつた。學者、研究者、熱心家が夏季には多數出かけたようである。昆蟲學者長谷川仁氏が昆蟲採集の餘力を以て多足類をも若干採りそれを私に寄贈して下さつた。それを三好保徳氏が調査して次の如くお知らせ下さつた。標品は現在三好氏のお手許にある。

1 *Japonaria laminata* (Attems) オビババヤスデ 1950年7月16日, 至佛山, 1♂ 同年9月19日, 富士見峠, 3♂♂ 5♀♀

2 *Epanerchodus* sp. オビヤスデ 1種 1950年9月19日, 1♀ (♂が無いので種名まで決定し難い)

3 *Karteroius niger* Attems クロヒメヤスデ

1950年7月14~15日, 富士見峠, 1♂ 2♀♀ 以上記して後日の備忘とする。富士見峠も至佛山も濕原からは離れた所である。(高島春雄)